

第3回 栗原市総合計画審議会 会議録

日時：平成27年3月18日（木）

午後1時30分～

場所：市役所305・306会議室

1 任命書交付

岩渕 進 仙北信用組合常務理事に任命書交付

藤村 孝喜 連合宮城仙北地域協議会議長は欠席（次回改めて紹介する）

2 開会

3 挨拶

○栗原市総合計画審議会 会長

1月に開催してから2ヶ月経った。この間、事務局には、アンケート項目の精査をいただいた。さらに、地方創生の委員会については、この総合計画審議会が兼ねることとなり、新たに2人の委員が加わった。2人は栗原市以外の方であるが、外からみた意見、忌憚のない意見を頂きたい。従来からの委員には、先般来、忌憚のない意見を頂いておりますので、引き続き住み良い栗原を造るため活発な議論を頂きたい。よろしく願いたい。

○企画部長挨拶

4 報告事項

- (1) 栗原市まち・ひと・しごと創生推進体制について
- (2) 地域住民生活等緊急支援のための交付金について

(議長)

報告事項なので審議することではないが、地方創生を実効あるものにするため、委員の理解が必要と思うので、質問時間を設けたい。

(議長)

地方創生と地方創生先行型との違いは何か。先行型はいつから実施するのか。

(事務局)

地方創生は、これから策定する栗原市版総合戦略に盛り込んでいく5年間のもの。現在、総合戦略を策定していないので、先行型に記載している事業は、

先行して交付金を活用し事業を進めるもの。これらの事業も総合戦略に盛り込んでいくものである。

今回の交付金は、国の平成26年度補正予算で、平成27年度に繰越をして交付されるもの。市では、平成27年度1年間を掛け、この交付金事業に取り組んでいく。平成28年度以降については、総合戦略の策定も含め、平成27年度から5年間の戦略の中で事業を組み立て、国の新しい交付金を活用し取り組んでいくもの。

商品券については、商工会と調整をしているが、7月1日には発行したいと思っている。

(委員)

プレミアム付商品券と低所得者向け商品券は重複すると考えて良いのか。

(事務局)

プレミアム付商品券は全世帯で購入できるもの。低所得者向け商品券は交付なので重複はありえると考えている。

(委員)

推進体制の確認。

成長戦略検討プロジェクトチーム構成はどのようにしていくのか。

成長戦略検討プロジェクトチームと各部局はどのようなかかわりをもって進めていくのか。

(事務局)

市役所の意欲ある若手職員と産学官勤労の各分野の団体からの推薦のあった市民で構成する。職員と市民が4つのグループに入り、具体的な施策の提案をしていただくことを考えている。事業を提案するに当たり、関係する各部局と調整をしながら具体的な事業施策を練り上げて行くイメージである。

(委員)

各部局イコール個々の市職員との認識でいいか。

(事務局)

若手職員は、プロジェクト委員として、各部局は、市の組織、実際の事業課の部署である。

意欲ある若手職員は、所属している部署にかかわらず、自分の希望するテーマを選んで参加していただくので、プロジェクトと各部局はイコールではない。

(委員)

若い人はいろんな意見を持っている。ボトムアップの形での委員会であればいい。

意見が各部局に通っていく。各部局がそれをすり合わせられるような体制作りを是非やっていただきたい。

(委員)

5年間続くのか。効果が見込まれているのか。

(事務局)

交付金は、2つのタイプがある。地域消費喚起・生活支援型は、平成27年度単年度交付されるもの。地方創生先行型は、5年間の総合戦略に盛り込むのを前提に先行して実施するもの。地方版総合戦略策定事業は単年度であるが、それ以外の事業は、総合戦略の事業に位置づけることで5年間の継続は担保されると認識をしている。さらに、総合戦略の中に、プロジェクトチームなどで事業を提案し、市として決定していく流れとなる。また、事業効果については、総合戦略の各事業に必ず数字目標の設定が求められている。このため、事業の達成率についてもこの審議会で評価をしていただくことになる。

(委員)

地方創生の事業については、内容を深めて進めていただきたい。

(議長)

栗原市総合計画審議会は、市長からことあるごとに諮問を受ける形になるのか。審議会の役割を少し明確にしていきたい。

(事務局)

審議会の役割として、平成27年度中に、総合戦略(案)や地方人口ビジョン(案)を審議会に諮問するので答申をしていただくことになる。また、平成27年度末ごろに地方創生先行型の事業、地域消費喚起・生活支援型についての成果を評価していただくことになる。これについては、諮問になるのか、意見をいただく形になるのか、決定していないが審議をしていただくイメージをしている。

そして、総合戦略の策定後、平成28年度以降であるが、毎年、施策の見直し案の諮問や、毎年度末に達成度の評価について、意見や答申をいただく形になるとイメージしている。

(議長)

地方版総合戦略は、この委員会で作るのか。

成長戦略検討プロジェクトチームで、雇用創出、移住促進、子育て環境、地域づくりについて協議することになっているし、予算も先行して付いている。これから人口ビジョンや地方版総合戦略を作るという理解をして良いか。そして、これから作る総合計画とどういう関係になるのか。

(事務局)

国の総合戦略には4つの柱がある。栗原市もその4つの柱に沿ったプロジェクトチームを作り、ボトムアップで総合戦略を策定していきたい。

総合計画は、市の全ての計画の最上位計画である。総合戦略は、総合計画の中にある地方創生に特化したものが総合戦略という位置付けである。

最初に総合戦略を策定し、平成28年度前半に、その戦略を取り込んだ総合計画を策定して行くイメージである。

(議長)

報告事項はこれぐらいにする。

5 協議事項

(1) 市民満足度調査（総合計画に関する市民アンケート）案について

第2回栗原市総合計画審議会で協議したアンケート（案）内容について、審議会委員から頂いた意見を基に修正を加えたアンケート（案）を説明

(議長)

委員皆さんから意見を頂きたい。

(委員)

より解りやすくするため、取り組んだ事業の頭に●印などを付けるとより解りやすくなるのではないか。

(委員)

アンケートを記載した人は誰か解るのか。

(事務局)

配付時は解るが、回収時は解らない。

(委員)

80歳以上には配布しないようになっているのか。

(事務局)

抽出の際に年齢を区切り抽出する。

(委員)

80歳以上は対象外か。

(事務局)

対象外である。

(議長)

個人に配布するのか。

(事務局)

そのとおり。

(委員)

人口構成から、50歳代、60歳代に多く配布されると思うが、それより、10年前に逆戻りしたらどうか。

(事務局)

これまでやってきたことに対する評価のアンケートである。現在の人口構成で聞きたい。これから協議する協議事項(2)の方は、若い世代の要望等を聞き取るアンケートとなっている。

(委員)

若い目でみたらどうかということを考えてる。過ぎた人の話しより、これからの人たちが重要ではないか。

(事務局)

アンケートは若い人にも配布される。

年代別のアンケート分析も行う。これらの意見も反映して行く。

(委員)

アンケートの処理はどのようにするのか。分析委託を考えているのか。

(事務局)

コンサル会社に分析委託を考えている。

(委員)

選ぶ項目で「わからない」とあるが、これは施策について知らないのか、判断がわからないのか、悩んでしまった。施策が解る人は、1 満足から 4 不満で判断すれば良いが、施策が解らない人は、知らないという選択があるといいと思っただが参考までに。

(議長)

支持率調査と違う。「どちらともいえない」との項目があったら良かったのではないか。

(事務局)

「どちらともいえない」という丸をつけやすい項目があると、集中してしまうということで敢えて外した。

(委員)

「どちらともいえない」は求めようがない。事務局に賛成するが、「わからない」というのはどちらに取ったら良いのか。施策を知らなかったのか、判断ができなかったのか。周知度も確認したいと事務局側にあったように思っているが。

(事務局)

「知らない」の選択肢をつけるべきか委員の皆さんに意見を聞きたい。

(委員)

施策を知っているか知らないかについては、問5にあなたは「栗原市総合計画」をご存じですか。で判断がつくのではないか。細かい施策については、これを全部知っている人の方がほとんどいないのではないか。「知らない」「わからない」をそれ程厳密に区別する必要がないと思う。

(委員)

今の意見を聞いて、ファジーがいいと思った。

(委員)

5 ページ 1 2 番の施策と 6 ページ 1 3 番の施策が同じであるので、ずれてい

るのではないか。

(事務局)

その通りずれているので訂正願う。

(委員)

項目によっては、不特定多数や、特定の対象者が受益者であったりするが、特定の場合、受益者へのアンケートを実施しているのか。

(事務局)

全てを把握しているわけではないが、イベントによってはアンケートを実施しているものもある。しかし、総合計画にその部分を入れ込む、アンケート集約することは考えていない。

(議長)

そういうこともあるが、栗原市民全体の意見が出てくるもの。それを前提とした上でのアンケート実施である。

(事務局)

子育て支援、福祉計画などは、総合計画を基に、個別に計画を作っているが、計画を作る上でそれぞれ調査し計画を策定している。そういう部分でフォローはされていると理解していいと思う。

(高橋英夫委員)

解りやすく直していただいた。このまま進めていただきたい。

(議長)

この協議はここで修了とする。

(2) 総合戦略策定に係るアンケート案について

(委員)

問4に独身だけで選択肢が3つあるが、それに関係する設問がない。独身をまとめてはどうか。

(委員)

結婚相談所より詳しいアンケートである。これを回収するのは難しいのではないか。

(議長)

このアンケートが人口ビジョンを策定するのに何に役立つのか。見えない。

(事務局)

国や民間のアンケート調査を参考に作成したものである。

(議長)

独身の選択肢は一本にすることにする。質問が細かすぎることについて回答願う。

(企画部長)

このアンケートは記名であれば誰も書かない。無記名で、本心を聞きたい。現在、市では若者定住施策を展開している。この中で、本心を聴いた上で、これからの対策をどうして行くのか。どこに問題点があるのか把握したい。こうすることで、微に入り細に入りとなってしまった。

(委員)

13ページ問13～15について、子どもがいない、子どもをつくることを考えたことがない場合のことも想定し、ゼロの選択肢も必要でないか。

(事務局)

問13～15の選択肢に「いない」などを設定したい。

(委員)

該当する保育士に見せたら書かないとのこと。かなりプライバシーにかかわる内容である。このままいったら回収率が悪くなる。クオカードを付けるなど工夫が必要。

(委員)

問10の設問、人口にどのように結びつくのか。人口推計にこれが必要なのか。項目を厳選すべきでないか。

(佐々木寿美子委員)

中身をまとめて、書く人の心に傷つかないような設問の仕方を考えて欲しい。

(議長)

設問が露骨である。もっと厳選すべき。

(事務局)

意見を踏まえ、設問を厳選し対応する。再精査する。
調査することには理解を得ていると思っている。調査表を精査次第、委員に送付するので意見を頂きたい。

(委員)

内容がデリケートなので、配布は、区長配布でなく郵送の方がいいのではないか。

(事務局)

クオカード、配布方法について、検討させていただきたい。

(議長)

このアンケートが、人口ビジョン策定に当たって参考にしたいとの記載をすることも必要。理解してもらうことが重要。

6 その他

今後のスケジュールについて

次回開催日程は、平成27年5月28日(木)午後1時30分に決定。

7 閉会 (午後3時30分)